

## ポートフォリオ作成 支援のABC

北海道家庭医療学センター  
八藤英典 草場鉄周

## 本日の内容

ポートフォリオ作成支援システムについて  
3つのSTEPにわけて  
北海道家庭医療学センターでの実践を紹介し  
ながらポイントを整理し  
ワークショップを通じて現場でそのままいかせ  
る学びを目指します

## 作成支援システム

- STEP 1  
ポートフォリオとそのテーマの理解
- STEP 2  
ポートフォリオの「ネタ」探し
- STEP 3  
ポートフォリオの作成

### STEP1: ポートフォリオとそのテーマの理解

- 3つのポイント
- 認定試験で要求されるポートフォリオは、あくまでも提出用ポートフォリオ
  - 提出用ポートフォリオは基準準拠型ポートフォリオの位置づけとなり、形式はいわゆる事例報告に則っている
  - また、認定試験であるため、**総括的評価**がなされ、合否判定の対象となる

## 評価について (Kernら、1998)

### 【形成的評価】

- 個人のパフォーマンスを改善しやすくするために用いる学習者や指導者への評価
- 改善のためのサポート

### 【総括的評価】

- 個人に関する判断や決断のために用いる学習者や指導者への評価
- 達成度証明／パフォーマンスの認定

## ポートフォリオのタイプ (西岡、2003)

### 基準準拠型

- 教育する側が評価基準をあらかじめ設定し、それと照らし合わせて作品を収集
- 自由度とオーナーシップは低い

### 基準創出型

- 両者の中間
- 指導者と学習者が議論し、評価基準を作り上げていく

### ショーケース

- 学習者が自分にとって重要な作品を自由に選ぶ
- 総括的評価は困難

## 認定試験要綱から

### 【ポートフォリオ】

ここでいうポートフォリオとは、家庭医療専門医に求められる臨床能力を示す事例を集めたものである。

## 指導医に求められること

### 【ポートフォリオ事例項目】

= 【学会認定プログラムの到達目標】

まずは、

- ・ 認定プログラムの到達目標に関する理解
- ・ 特に、家庭医を特徴付ける5領域と全ての医師が備えるべき3領域に関する知識・実践・省察
- ・ 提出用ポートフォリオの位置づけを理解し、日常のポートフォリオや一般の症例報告と区別

## 研修医に求められること

- ・ 研修の枠組みに対するオリエンテーション
  - 日々の臨床と省察、そしてポートフォリオ作成という基本的な研修の流れを把握
- ・ 認定プログラムの到達目標に関する基礎的知識
  - 指導医からのレクチャーや文献の活用
- ・ 個人の研修目標の策定
  - プログラムの目標と研修医自身の個性(能力、志向性など)をブレンドし、実現可能なものへ

## STEP 2: ポートフォリオのネタ探し

3つのポイント

- ・ 研修医の省察的実践を可能にする教育方略を活用し、ポートフォリオ作成に適したケースをピックアップ
- ・ 省察とケース選択のためには指導医からのマンツーマンのサポートが必要
- ・ 意欲的な研修医にはプロジェクト型学習の機会を提供

## 省察的実践のための学習方法

### 研修の記録

- ・ ログブック／研修記録など
- ・ 日記風／メモの活用／パソコンの文書／ブログなど自分にあった方法で
- ・ 長続きすることが大切

### 症例カンファ

- ・ 日々の症例に関するディスカッション
- ・ 研修医のプレゼン→指導医のコメント
- ・ 症例を通じた指導医との相互交流が可能で、なおかつ診療の質向上に直結

### 振り返り

(形成的フィードバック)

- ・ 研修記録を参考に、一定期間の研修内容を研修目標に従って自己省察
- ・ 指導医と振り返りを共有し、指導医の視点からのコメント、そしてディスカッション

### その他

- ・ SEA (significant event analysis)
- ・ 臨床倫理の4分割法
- ・ ビデオレビュー

## 指導医－研修医関係

### 【ロールモデル】

- ・ 指導医の診療や思考プロセスが、自然に家庭医を特徴付ける能力を提示
- ・ 暗黙知として伝達されることも多い

### 【対話】

- ・ 暗黙知から明示知へ：言語化
- ・ 指導医の診療スタイルの意味を理解し、自分なりの家庭医スタイルを模索

## プロジェクト学習

### 意欲のある研修医のための一歩進んだ学び

- ・ 特定のテーマを取り上げて、問題解決的にアプローチする教育方法
- ・ 目標設定、計画立案、実行、評価と判断という一連の活動プロセスを経していく
- ・ テーマとしてあるポートフォリオ領域を選び、指導医と共に一つのプロジェクトを完成させ、そのプロセスと考察をポートフォリオとしてまとめる
- ・ 例：禁煙外来の導入／DM診療の質向上 等

## STEP 3: ポートフォリオの作成

### 4つのポイント

- ・ ケースがテーマと合致しているか確認
- ・ ポートフォリオの提出様式の遵守
- ・ テーマとケースに応じた適切な文献や資料を選択
- ・ ケース内容とその考察が評価基準の【標準的合格ライン】に到達しているかの検討

## 認定試験要綱から

### 【ポートフォリオ】 → 例を提示

ここでいうポートフォリオとは、家庭医療専門医に求められる臨床能力を示す事例を集めたものである。ポートフォリオ事例報告書には次のことを記述する必要がある。

- ・ その事例を選んだ理由
- ・ 実践した具体的内容
- ・ 今後の学習課題の設定を中心とした省察とその根拠

## 文献／資料

### 【テキスト】 理論にふれたものをメインに

- ・ 総論： Taylor / Rakel / McWhinney / Saultz
- ・ 和書：「家庭医療マニュアル」葛西
- ・ 生物心理社会モデル：「患者中心の医療」M. Stewart
- ・ 家族志向型ケア：「家族志向のプライマリ・ケア」S. McDaniel
- ・ 行動変容：「健康のための行動変容」S. Rolnick

### 【雑誌】 下記に止まらず多様なリソースあり→検索を

- ・ JIM
- ・ Journal of Family Practice / Annals of Family Medicine

## 考察の検討

### 【実践に対する振り返り】

- ・ 評価基準のポイントを押さえながら、達成点、未達成点を明示

### 【文献／資料を踏まえた振り返り】

- ・ 自分の実践を客観化し比較検討

### 【今後の学習課題の明確化】

- ・ 家庭医療専門医としてこれから活躍する中での自己課題の設定と指針の明示

## まとめ

- ポートフォリオ作成の際には【テーマの理解】、【ネタ探し】、【作成プロセス支援】の3STEPを踏んだ指導医のアプローチが重要です
- 【テーマの理解】には、ポートフォリオ自体の理解、対象領域とその到達目標の把握が必要
- 【ネタ探し】には、省察的実践を継続するための研修の枠組が必要
- 【作成プロセス支援】には、提出様式を踏まえた形と認定基準をクリアする考察が必要